

2020年5月3日（日）久宝教会 復活節第4主日礼拝

メッセージ「大切にしたいけれど」 牛田 匡 牧師

聖書 ヨハネによる福音書 21章 15-19節

先日から急に暖かくなり、慌てて衣替えをされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。カレンダーを見ると、もう5月になりました。例年ならば楽しみにしているゴールデンウィークの連休ですが、今年はどこかに出かけられるわけでもなく、長引く自粛生活の中で「ちっとも楽しみじゃない」とお感じになっている方も少なくないのではないかと思います。

当初は5月6日までと言われていた緊急事態宣言も、恐らく延長されそうです。この新型コロナウイルスの世界的大流行が始まってから、とりわけ子どもたちの学校が突然休校になってからの2カ月間、また緊急事態宣言が発令されてからの1カ月間、私たちの日常は様々な点で改めて問い直されて来ています。これまで当たり前とやって来たことの数々が、当たり前ではなくなってきました。休業している企業や学校、テレワーク（在宅勤務）や外出自粛によって人々が乗らなくなった交通機関、営業していてもお客さんが来なくなった飲食店など、具体例をあげればキリがありません。

しかし、そのような中でも私が今、最も感じさせられているのは、私たちの「想像力が問われている」ということです。人は自分が立っている所からしか、経験したことからしか、物事を考え判断することができません。だからこそ自分ではない他者について、真摯に目を向け、耳を傾けて、学ばせて頂く必要があります。新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言の発令期間が長期化している今、他者に思いを馳せ、他者に対して想像力を働かせるという、そんな当たり前のことが、なし崩しになって来ているように感じています。その原因は、非日常の異常事態が長引いていることで、「一人一人のゆとりが無くなって来ている」ということでもあるのでしょうし、この燃え盛る炉のような状況の中で、一人一人のメッキが剥がされて本来の姿があらわにされて来たということでもあるのではないかと考えています。

5月になり、ようやく一人一人に一律10万円という「特別定額給付金」も、事業所に対する「持続化給付金」の受付も始まりました。しかし、先月から始まっている「雇用調整助成金」も、申請される数は数万件と多くても、それが実際に受理され給付されている数は数百件とまだまだ少ないのが現状のようです。新自由主義経済の下、経済格差は年々拡大し続け、数年前から貯蓄を持たない「貯蓄ゼロ世帯」が増加し

て来ていると指摘されていましたが、まさに今、日々の暮らしを自転車操業で何とかつないで来ていた人たちから悲鳴が上がっています。「コロナにかかって死ぬか、それとも食べていけなくなって飢え死にするか」、そんな言葉すら聞こえて来ています。

また新型コロナウイルス感染者を受け入れている指定病院の医療現場では、すでに「医療崩壊が起きている」とも報じられています。高齢者施設や障がい者施設でも、いつウイルスが入り込むかもしれないと戦々恐々としながら、非常に厳しい運営が続けられています。それらの現場で必死に立ち続けておられる方々に敬意を覚えつつ、格差と分断がますます広がっている今日、私たちがなすべきことは、誰と共にどこに立ち、何をみつめることなのでしょうか。そのことに想像力を働かせたいと思います。

さて、今回の聖書の箇所は「ヨハネによる福音書」の最後の 21 章から、復活されたイエス様とその弟子のペトロのお話でした。弟子たちは前の夜から湖で漁をしていましたが、魚はちっとも捕れませんでした。しかし、そこにイエス様が現れてからは一転して大漁になったそうです。そして岸に上がってから、皆でパンと魚の朝食をとったというお話からの続きです。

15 節で、イエス様はペトロに「あなたはこの人たち以上に私を愛しているか」と尋ねられますが、「この人たち」とは、ペトロの他にその食事の場に一緒にいた仲間の弟子たちのことでしょう。しかし、皆の前でわざわざ優劣をつけるようなこんな質問をする必要があったのか、本当にしたのか、と考えると疑問に思います。ペトロは「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたをご存じです」と答えました。すると続く 16 節、17 節でも、イエス様は同じ質問をされました。17 節ではペトロは 3 回も『私を愛しているか』と言われたので、悲しくなった」とあります。確かに、現代の私たちの感覚からしても、こんなに同じ質問を 3 回も繰り返されたら、自分の返答がよっぽど信用されていないと悲しく感じるのではないかと思います。ペトロはどうだったのでしょうか。

ここで同じ質問が「3 回繰り返されている」のを読むと、読者の中にはイエス様が逮捕されて十字架に架けられる前に、ペトロが 3 回イエス様を「知らない」と言ったというお話を思い出される方もいらっしゃるのではないかと思います。イエス様の一番弟子を自負していたであろうペトロは、「たとえ殺されることになっても、イエス様の行く所に自分もついて行きます」と公言していました。それにもかかわらず、実

際にはイエス様が逮捕されて連れて行かれた時、周りの人たちから「あなたもあの人の仲間の一人じゃないか」と声を掛けられると、「あんな人は知らない」と3回もイエス様のことを否定してしまいました。平時には「あなたのためなら命をも惜しみません」と言っていたのに、とっさの時には自分かわいさに「あんな人は知らない」と言ってしまう…。そんな人間の弱さをペトロは代表しているように思います。

ですから今、死から引き起こされ、再び一緒に食事をしたイエス様から、3回に亘って「あなたは私を愛しているか」と問われたペトロは、「はい、愛しています」という自分の返答が、イエス様に信用してもらえていないということに悲しくなったのではなく、自分自身がかつてイエス様を3回も「知らない」「自分とは無関係だ」と言ってしまったことを思い出して、悲しくなったのかもしれない。

もう一つ、この箇所で気になるのは、イエス様とペトロの間で交わされている問答の中で用いられている言葉が違っているという点です。聖書協会共同訳でも新共同訳でも、「愛しているか」「愛しています」という日本語に翻訳されていますが、元々のギリシャ語では、イエス様は「アガペーしているか」と問いかけ、それに対してペトロは「はい、フィリアしています」と答えています。現代の日本語では「愛する」や、「大好き」「好き」という言葉が、あまり区別なく使われているように思いますが、当時のギリシャ語でも「アガペー」と「フィリア」は特に区別なく使われていたようです。

ですが、言葉自体は異なっていますから、日本語の翻訳としても、「私を愛しているか」「はい、ほれこんでいます」と訳したり、「私を大切にしているか」「はい、気にかけています」と訳したりしている聖書もあります。そして面白いのは、ペトロに対するイエス様の質問が、最初の2回は「アガペーしているか」なのに、3回目はペトロと同じく「フィリアしているか」に変化していることです。「アガペー」と「フィリア」のどちらが、「内容的により優れているか、劣っているか」ということではなく、一貫して「フィリアしています」としか答えられないペトロに対して、イエス様が「そうかい、あなたはフィリアしているんだね」と譲歩して、そのままのペトロを認め、受け入れてくれたように、読めるのではないかと思います。

そして、イエス様は最後に言われました。「私に従いなさい」、私の後に付いて来なさい……。イエス様が「神の子」として普通の人にはない超能力を使って、あちこちで奇跡を起こしていたのであれば、「私に従いなさい。付いて来なさい。同じようにしなさい」と言われても、同じ能力を授けてもらわない限りは、私たちには「無理です」としか答えよ

うがありません。しかし、イエス様はそうではありませんでした。その始めから最後まで徹底して人間でした。弱く小さくされた一人の人として、神の意志を生き抜き、歩み通し、それ故に死から引き起こされ、「神の子」とされました。それは、言い換えるならば、私たちもまたイエス様の後に従って生きて行くことができるということです。

イエス様は弱さを抱えるペトロに、「イエス様を愛したい、大切にしたいと思いつつも、大切にできない」そんなペトロに、自ら歩み寄り「アガペーでなくても、フィリアでもいい。あなたのそのままで、私について来なさい」と告げられました。ペトロは言いました。「主よ、あなたは何かもご存じです。私があなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます」……。神様は、私たちにできないことは求められていません。隣の人たち、大切にしたいと思いつつも、最も身近にいる同居の家族に対してすらも、大切にすることのできないことのある私たちです。そんな弱さや限界を抱えた私たちですが、神様はそのことをご存じです。イエス様はそんな私たちに「私に従いなさい。私の後について来なさい」と言われています。「大切にしたいけれど、大切にできない」と嘆くのではなく、「大切にしたい」という思いが与えられているという所から、歩みを起こして行ければと思います。今、自分にできることは何でしょうか。

病気の感染を防ぐために、人と身近に接することができない、皆で集まることができないというのは、とてもつらいことです。多くの教会がインターネットを使って「オンライン礼拝」を始めていますが、誰もがインターネットを使いこなせるわけではありません。学校のオンライン授業にしても、職場のテレワークにしても、それらが可能なのは一部の人たちだけで、様々な理由からできない人たちもたくさんおられます。あちこちで分断が引き起こされている今日だからこそ、今、自分がいる場所から見えるものだけではなく、他の人やものにも想像力を働かせて行きたいと思いつつも。

人と人とのつながりが分断されゆく中にあつても、様々な形がつながり合い、支え合おうとしている草の根の働きがあります。また医療や福祉の現場での必死な働きがあります。流通や小売りなど、人々の生活を維持するための働きがあります。それら一つ一つの働きの中に、神様は共におられます。それらの働きを覚え、他者に対する想像力をもって、私たちも自分にできる形がつながり合って行けることを願いつつも。「私に付いて来なさい」と言われたイエス様の後に従う道へと、私たちは今日も、復活の神様と共にあつてここから歩み出して行きます。